

第10回

道案内をしよう

講師

阿野 幸一

◆◆◆ 今回の目標 ◆◆◆

英語で道を聞かれたときには、道順を教える決まり表現を覚えておくと、あわてずに説明することができます。また建物や店など、目印になる場所を使って教えると親切です。

道順など、物事の手順を丁寧に伝えるときには、動詞の原形から始める「命令文」を使います。相手が道をたずねる表現も知って、道案内の会話ができるようになります。

1 /l/ と /r/ の音の違い



舌の位置に注意しながら発音してみよう！

今回は、道案内でよく出てくる例文 Turn **right** at the traffic **light**. から、**right** と **light** の音の違いについて練習します。



上の歯ぐきに舌先を当てて、舌の両側から声を出すように発音します。



舌をスプーンのようにして少し後ろに引き、舌先は口の中のどこにも触れないように発音します。

2 スキットの内容から



Karen が道に迷ってしまったのは、なぜでしょう？

クレープのお店を案内する



Karen がお目当ての店が見つからず困っているところに、通りかかった Yuji。うまく道案内できるでしょうか？

Yuji : Do you need help ?

Karen : Yes, please. I'm looking for this crepe shop.

Yuji : Crepe shop? Sure. Go down this street and turn right at the gasoline stand.

Karen : Gasoline stand?

Yuji : Yes. Then, go straight and turn left at the mansion.

Karen : Turn left at the mansion...

Yuji : You'll see the crepe shop on your left.

道を教えるときには、

Go straight along + 道 (この道をまっすぐ行ってください)

Turn [left / right] (at...) (～のところを[左/右]に曲がってください)

You'll see + 目的地 on your [left / right] (目的地が[左手/右手]に見えます)

などの決まり表現が使えます。

目的地までのだいたい所要時間も言ってあげると、より親切でしょう。

the convenience storeとかthe flower shopなど 目印となる場所を入れて説明すると、どこで道を曲がったらいいかなどが、しっかり伝わります。

ただし、英語と日本語での場所の言い方では意味が違うなど、通じない場合があるので気をつけてください！

3 文法・表現 命令文



手順などを説明するときには「命令文」が使われます。

道案内では、Go down this street. とか Turn right at the second corner. のように、主語の you はつけません。説明されている相手は、それが自分のことだとわかっているからです。また、please をつけて丁寧な言い方にする必要もありません。please をつけてしまうと、教えている側から逆をお願いされているみたいな感じとなり、おかしなコミュニケーションになってしまいます。

こうした手順を説明する命令文は、

Cut the pumpkin into four. (かぼちゃを4つに切ります)

Slice the onions. (玉ねぎをスライスします)

Peel the carrots. (にんじんの皮をむきます)

のように、料理のレシピなどでは定番の表現です。ものを切るときの表現でもいろいろな動詞が使われていて、面白いですね。

☆☆☆ カップラーメンの作り方 ☆☆☆

Boil water. (お湯をわかします)

Open the lid. (ふたを開けます)

Pour the water into the cup to the line.
(カップの線までお湯を注ぎます)

Close the lid. (ふたを閉じます)

Wait for 3 minutes. (3分間待ちます)



4 関連する単語は、対比しながら覚えよう!



「教える」という意味の tell と show のニュアンスの違いを知ろう!

たとえば、道をたずねるときに、

Could you **tell** me the way to the station? と

Could you **show** me the way to the station? とでは、表す意味が違います。

「教える」

道を教える場合の「教える」ですが、tell、もしくは show を使います。この2つの単語の表す意味にどのような違いがあるのでしょうか? 比較してみましょう。

tell 道順などを言葉で説明して教える

show 実際に連れて行って案内をしたり、地図を描いたり使ったりして行き方を示す

「教える」というと teach という単語を思い浮かべる方も多いと思います。teach は、学校で教科などを教える場合に使うことからわかるように、もし道案内で使ってしまうと、席に座って、先生が生徒に黒板などを使って勉強のように道を説明するような印象を受けてしまうので、道案内の場面では適した単語ではありません。

up と down

今回のスキットでは、Go down this street. という表現が出てきました。

down には「下の方へ」という意味がありますが、この場合には実際に高いところから低いところへ下っていくわけではありません。話し手のところから離れて道を進んでいくときに Go down this street. と down を使って表現します。

そして、「こちらに来なさい」のように、話し手の方に近づいてくる場合には up を使って、Come up to me. のように表現します。

もちろん、階段などの上がり下りには、文字通り go up (上る) go down (下る) のように使います。

「トイレ」は英語では?

「トイレ」を表す代表的な単語には bathroom と restroom がありますが、皆さんはどのように使い分けているのでしょうか?

bathroom は、bath という言葉からもわかるように、お風呂を想像すると思います。つまり、お風呂とトイレが一緒になっているような場所のことを表すことから、家庭やホテルの部屋のトイレのことを表すのが一般的です。

それに対して restroom は、rest (休憩) できるような room (場所) なので、公共の場所のトイレのことを表します。授業の間の休み時間に行く学校のトイレや、買い物の途中で行くショッピングモールのトイレ、そして電車の乗り換えのときに行く駅のトイレなどは restroom と表示されていると思います。



NHK
高校講座

目的外の
使用禁止